

Press Release

○ 未来を想う
Think Green
環境首都・札幌

1. 水と森と空気から考える、みらい
2. エネルギーから考える、みらい
3. ごみと資源から考える、みらい
4. いのちから考える、みらい

発表日 2026年3月26日

札幌コンベンションセンターへ道内の再エネ電力を供給し電力の地産地消を行います！

札幌市は、2050年の「ゼロカーボンシティ」の実現に向け、道内自治体との連携による再エネ電力導入事業の事業調整役として選定した北海道電力(株)と協働で、2024年4月より清掃工場で余剰電力を地下鉄へ供給する「電力の地産地消」の取組みを実施しております。

その取組みを拡大し、2024年2月に稚内市と締結した連携協定に基づき、稚内メガソーラー発電所及び札幌市水道局（平岸配水池）の水力発電由来の再エネ電力（以下、「道内再エネ電力」という。）を、2026年4月1日より札幌コンベンションセンターへ供給します。

札幌コンベンションセンターは、これまでも太陽光発電設備の設置や、国内の既存MICE施設として初となる「LEED O+M ゴールド認証^{※1}」の取得（2025年12月）など、環境に配慮した取組を進めており、今回、MICE施設で国内初^{※2}となる自治体との連携による直接的な道内再エネ電力の地産地消を行うことで、さらに「サステナブルなMICE」の開催が可能となります。

※1:国際的なグリーンビルディング評価システムであるLEED®（Leadership in Energy and Environmental Design）のO+Mは、既存建物の運用・維持管理段階に焦点を当てたもので、持続可能な運営を継続的に推進している施設に与えられる。

※2:2026年3月24日時点、本市調査による

道内再エネ電力の地産地消の概要

【電力供給の仕組み】

- ・再エネ電力の調達・融通を担うアグリゲーターである北海道再エネアグリゲーション(株)が道内再エネ電力を買取り、(株)エネットへ融通する。
- ・融通された電力を(株)エネットが札幌コンベンションセンターへ供給することで道内再エネ電力の地産地消を行う。

【想定される供給電力の内訳・CO2削減効果の見込み】

- ・札幌コンベンションセンターの消費電力量：約144万kWh/年
- ・道内再エネ電力：約35万kWh/年（約24％）を供給
- ・実質再エネ電力：約109万kWh/年（約76％）の電力を(株)エネットが調達、道内再エネ電力由来の非化石証書を付与し供給
- ・CO2削減量：約788t/年削減（一般家庭約190世帯分相当）

【イメージ図】



お問い合わせ

本件につきましては、以下の各担当までお問い合わせください。

担当事項	担当部署・担当者	連絡先（住所/TEL）
事業の概要	環境局環境都市推進部 環境エネルギー課（樫山、室腰）	札幌市中央区北1条西2丁目 TEL:011-211-2872
札幌コンベンションセンター	経済観光局観光・MICE推進部 観光・MICE推進課（高木、勘野）	札幌市中央区北1条西2丁目 TEL:011-211-2376
平岸水力発電所	水道局総務部企画課（大桶、尾崎）	札幌市中央区大通東11丁目23 TEL:011-211-7014

札幌市環境局環境都市推進部 発表

Press Release

○ 未来を想う
Think Green
環境首都・札幌

1. 水と森と空気から考える、未来
2. エネルギーから考える、未来
3. ごみと資源から考える、未来
4. いのちから考える、未来

参考

【道内再エネ電力発電所概要】

稚内メガソーラー発電所	
所有者	稚内市
建築年	2006年度
発電所出力	4,990kW
年間発電量	約460万kWh（2024年度実績）



平岸水力発電所	
所有者	札幌市水道局
建築年	2022年度
発電所出力	670kW
年間発電量	約420万kWh（2024年度実績）



【札幌コンベンションセンター概要】

指定管理者	SORA-SCC共同事業体（代表団体：株式会社コンベンションリンクージ、構成団体：株式会社東洋実業）
施設概要	施設規模：20,310㎡、構造：RC造、一部SRC・S造・地下1階地上3階建 大ホール、特別会議場、中ホール、小ホール、中・小会議室15室
住所	札幌市白石区東札幌6条1丁目1-1

